



社会福祉法人と共に進める福祉のまちづくり ～住民主体の福祉活動を支えるネットワーク～

小野市社協では、市内に事業所を置く20の社会福祉法人と共に今年6月「小野市社会福祉法人連絡協議会」を立ち上げ、地域とのつながりを大切にしたい地域福祉を推進している。

市内の社会福祉法人と共に地域福祉を推進

社会福祉法の改正に伴い、小野市では、平成28年度から市内の社会福祉法人と共に地域公益活動検討会を開催し、活動の在り方を検討してきた。そして、各法人が連携して公益活動を進めるため、市内に事業所を構える20法人により今年6月に「小野市社会福祉法人連絡協議会」を立ち上げ、小野市社協が事務局を担うこととなった。

検討会では、社会福祉法人の特性を生かし、福祉専門職を地域活動の場などへ派遣して地域貢献ができないかという意見があがっていた。地域活動においては、住民による福祉推進委員会が「ひとり暮らし高齢者を励ます会」を開催しているものの、なかなか開催に踏み切れない地区や、開催していても内容のマンネリ化に悩んでいる地区があった。そこで、小野市社協が双方をマッチングし、高齢者施設職員による健康講話や保育園児との交流など、各地区の法人が協力し、今年は全ての地区で「ひとり暮らし高齢者を励ます会」を実施することができた。

ネットワークで支え合いの輪を広げる

「ひとり暮らし高齢者を励ます会」では、各地区に所在する法人の事業所が参加することで、地区の住民、民生委員児童委員、福祉推進委員と施設職員とのつながりが生まれるきっかけとなった。また、開催日には、保育所の園児と参加者との手遊び、手作りプレゼントの贈呈などを通じて世代間の新たなつながりも生まれ、会場はたくさんの笑顔に包まれた。

さらに、小野市では現在、生活支援体制整備事業に取り組んでおり、地域での支え合いの仕組みなどを話し合う「地区よりそい協議会」を市内2地区で先行して進めている。この協議会には、社会福祉法人連絡協議会からも地区内の法人・事業所が参画し、協働している。まずは地域の実態を調査するため、協議会のメンバーが各世帯を丁寧に訪問しアンケート調査を行うなど、熱心な取り組みが始まっている。今後、調査結果を基に新たな支え合いの活動に向けた検討が進められる。



グループワークを通じて公益活動を考える



子どもたちの参加で笑顔に包まれたひとり暮らし高齢者を励ます会

取材を終えて

社会福祉法人連絡協議会の設立や生活支援体制整備事業の開始など、大きく進む地域福祉の情勢に対応しながら協力者のネットワークを広げ、住民主体の福祉活動につないでいく社協の役割が小野市社協の取り組みを通じてよく分かりました。

会長から

小野市社会福祉協議会 会長 岸本龍雄

小野市社協では、「第7期地域福祉推進計画」により、「人づくり」「まちづくり」「輪(和)づくり」「理想の福祉づくり」の4つの重点目標を掲げ、社協活動を展開しています。そして、住民が安心して暮らせる福祉を進めており、地元の民生委員児童委員、福祉推進委員、行政、各福祉団体等と連携しながら、地域の福祉問題の解決に努めています。また、市内の全ての社会福祉法人で新たに設立した「小野市社会福祉法人連絡協議会」では、「地域の公益活動」を推進しています。

